



グリーンベルト設置に汗を流す町内の児童生徒、町民ら＝久米島町儀間

海守るベチバー植栽

久米島 200人赤土対策に汗

【久米島】WWFジャパン久米島応援プロジェクトは15日、土壌保全対策の一環としてグリーンベルトの設置作業を町儀間にある佐久川潔さん所有のさとうきび畑で行った。

さとうきび生産農家や行政、ボランティア団体、久米島小、大岳小、久米島高校生

ら200人余が環境に安全・安心な植物とされるベチバー(イネ科)約1000株を植栽した。

作業に先立ち平良朝幸町長は「ベチバー植栽で赤土対策効果に期待したい」、WWFジャパン自然保護室主任の安村茂樹さんは「この活動を継続してください」とそれぞれ

あいさつした。

ベチバーを提供したNTCコンサルタンツの松川保則中部支社営業部参事がベチバーの特性を説明した。

畑主の佐久川さんは「赤土流出改善を願い、また久米島のお手本としていきたい」と述べた。

参加した新川果林さん(久米島小4年)湖城廣希君(大岳小5年)は「きれいな海を守るためにグリーンベルトで赤土が少しでも減ってほしい。参加できて良かった」と感想を述べた。(比嘉正明通信員)